

## 「人間力」と「社会人基礎力」とは

拓殖大学工学部教授 山下 省蔵

現行高等学校学習指導要領において、学校完全週5日制のもと「総合的な学習の時間」の導入が図られ4年が経過しようとしている。

その間、基礎学力の低下が指摘されてきたが、最近では高校での未履修問題や児童生徒の自殺問題への対応が緊急の課題となっている。

これからの学校教育について、安倍政権では教育再生会議を立ち上げ、国会では教育基本法をはじめ関係法規の見直し、文部科学省では次期の学習指導要領の改訂に向けた検討などが進められている。

現行学習指導要領では、「生きる力」の育成が掲げられてきたが、今回の見直しに当たっての検討課題は、「人間力」向上のための教育内容の課題として、①社会の形成者としての資質の育成 ②豊かな人間性と感性の育成 ③健康やかな体の育成 ④国語力の育成 ⑤理数教育の改善充実 ⑥外国語教育の改善充実 等が取り上げられている。

これらの検討結果を受けて、工業高校も将来を見据えた改善・充実を一層進める必要がある。

そこで、改善の重要な視点となる「人間力」および「社会人基礎力」について紹介したい。

「人間力」については、内閣府主幹で平成15年4月10日に「人間力戦略研究会」から「人間力戦略研究会報告書」が出されている。

さらに、「社会人基礎力」については、経済産業省主幹で平成18年2月8日「社会人基礎力に関する研究会」の報告書が出された。以下はこれらにもとづいた紹介である。

### I 「人間力」とは

#### 1. 「人間力」の定義

「人間力」とは、「社会を構成し運営するとともに、自立した一人の人間として力強く生きていくための総合的な力」と定義している。

そして、最近我が国の若年層において、「人間力」とりわけ学習意欲や就業意欲が低下していると指摘している。

この「人間力」は、学校・家庭・地域及び産業等のそれぞれの場を通じて段階的・相乗的に醸成されるものであり、「人間力」強化のためには、学校、家庭、地域及び産業等という四者共同の連携・協力が不可欠である。

#### (1) 「人間力」の構成要素

「人間力」の構成要素として次の3項目をあげている。

##### ① 知的能力的要素

「基礎学力（主に学校教育を通じて修得される基礎的な知的能力）」、「専門的な知識・ノウ

ハウ」を持ち、自らそれを継続的に高めていく力である。また、それらの上に応用力として構築される「論理的思考力」、「創造力」などもある。

## ② 社会・対人関係力要素

「コミュニケーションスキル」、「リーダーシップ」、「公共心」、「規範意識」や「他者を尊重し切磋琢磨しながらお互いを高め合う力」などである。

## ③ 自己制御的要素

これらの要素を十分に発揮するための「意欲」、「忍耐力」や「自分らしい生き方や成功を追求する力」などである。

これらを総合的にバランス良く高めることが人間力を高めることであるとしている。

(2) 「人間力」を発揮する活動場面から次の3つに分類している。

- ① 職業人としての活動に関わる「職業生活面」
- ② 社会参加する市民としての活動に関わる「市民生活面」
- ③ 自らの知識・教養を高め、文化的活動に関わる「文化生活面」

## 2. 「人間力」の現状

### ① 基礎学力および学習意欲の現状

基礎学力は低下し、国際比較でも、日本の小中学生の学習時間（宿題や自分で勉強をする時間）は少なくなっている。中高生および大学生が本を読まなくなっている。

### ② 専門的な知識の現状

企業に対する調査によれば、「新入社員等の技能・技術に関わる基礎知識が不十分」とする企業が約6割を占め、5～10年前と比べて低下しているとする企業が約5割を占めている。さらに、「文章表現力」、「論理的思考力」、「コミュニケーション能力」等の低下を指摘する企業が多い。

### ③ 就業・社会参加意欲が低い

大学卒業時に無業であった者の3割は在学中に就職活動をしていない。また、フリーターのうち、学校を卒業後、正社員として就職しなかった者の4割が「正社員として仕事に就く気がなかった」としている。

また、若年者の社会参加意欲も希薄である。近年における地域の結びつきの低下に伴い、若年層の地域コミュニティや社会に対する参加意識が薄れているとの指摘もある。

### ④ 目的達成意欲が低下

高い目標を持つと同時にそれを達成する意欲が低下している。日本の中高生は、外国（米国、韓国等）の生徒に比べて、自分に対する満足度が低く、将来に希望をもっている者の割合も低位にとどまっている。

以上の結果から、「我が国の若年層において、人間力とりわけ学習意欲や就業意欲が低下」している可能性が高いと指摘している。

## 3. 人間力低下の原因

若年層の人間力低下の原因としては、以下のような実態を指摘している。

### ① 夢もしくは目標の喪失

就業による自己実現の可能性の低下や身近な大人の自信喪失、成功モデルの崩壊により、目指すべき目標像が見えにくくなっている。

先行き不透明感が高いため、依然として従来型成功モデルを追求する競争も激化している。他方で、少子化に伴い、一部の難関校を除けば進学が容易になり、高い目標を自ら設定して無理をするよりは、現行能力以内のレベルで満足しようとする傾向がある（但し、心から満足はしていない）。

### ② 経済の成熟化

経済全体が豊かになり、定職に就かなくともある程度のレベルでの生活は可能なため、なぜ働かなければいけないか、わからない。卒業後

の進路を主体的に選択する能力を形成する環境が整備されていないため、何をしたいのかわからない。価値観が多様化するなかで、個々人が自分自身の目標を見出すことができない。

### ③ 時代に対応した人材育成社会の不足

経済のグローバル化、就業形態の多様化等に伴い、健全に競争力を発揮できる人材が求められているが、そうした人材を育成するための教育機会は十分ではない。

仕事が高度的、複雑化すると同時に迅速な対応が重視される中、従来に増してリーダーシップが要求されるようになってきているが、他方で若年者が社会活動や集団活動等に従事する機会が減少し、リーダーシップの育成機会が減少している。

### ④ 職業能力のミスマッチ

グローバルな競争の活発化、技術レベルの高度化や情報化が進展する中、高度で専門的な能力や知識の重要性が高まっており、職業能力のミスマッチが拡大している。

特に、アルバイトや無業者、モラトリアム進学者などが増加しており、これらの人々は、職業スキルを身につける機会が少ないまま加齢するため、同世代の新卒就職者に比べ、職業能力の欠如がより顕著であると指摘している。

### ⑤ 社会全体の規範力低下

刑法犯の4割以上、街頭犯罪の約7割が少年犯罪である。また、少年犯罪の凶悪化、粗暴化傾向が続いている。

犯罪を犯す少年の近年の特徴として、「罪悪感に乏しい」、「無表情で何を考えているかわからない」点が指摘されるとともに、「責任感、倫理観のない保護者」、「責任逃れの学校」、「地域社会の教育力の低下」等の問題点も指摘されている。

以上に見たように、人間力の低下傾向は、教育制度や雇用制度において、学校、家庭・地域および産業等のそれぞれの主体が抱える諸問題

と密接に関わっている。

報告書では、人間力の強化のためには、それぞれの主体において取り組むべき課題について、短期、中期、長期として提示している。

例えば、学校教育の改善点については、キャリア教育の推進、進学経路の多様化、入試制度の見直し、開かれた学校づくり、学校評議委員制度の推進、教育評価の見直し、高校と大学の連携、教員の資質向上策等々具体的に述べられているので、詳細は報告書を参照されたい。

## Ⅱ 「社会人基礎力」とは

ここで紹介するのは、経済産業省が、産業人材の確保・育成の観点から、職場等で求められる能力（「社会人基礎力」）の明確化と産学連携によるその人材育成の在り方を検討するため、研究会を立ち上げ、その成果として発表された内容である。

近年、職場等において、基礎学力や専門知識に加え、コミュニケーション能力や実行力等の「人との接触の中で仕事をする能力」が重視される。

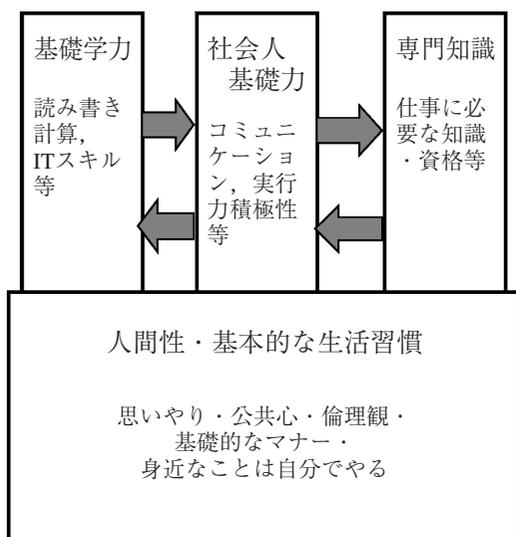
若者においては、そうした能力の低下が指摘されている。こうした能力は、従来大人になる過程で「自然と」身に付く能力と考えられ、その能力の定義や育成のための方法については明確にされていない。

しかし、国内における人口減少社会の到来、若者の価値観の変化等を踏まえると、「職域等で求められる能力」（社会人基礎力）を独立の能力として明確にするとともに、意識的に育成・評価していくための「社会全体による新たな枠組みづくり」が早急の課題であると指摘している。

### 1. 「社会人基礎力」の位置づけ

報告書では、「社会人基礎力」は、「組織や

地域社会の中で多様な人々とともに仕事を行っていく上で必要な基礎的な能力」としている。さらに、職場や地域社会で活躍する上で必要となる能力については、「基礎学力」「専門的知識」「社会人基礎力」の3つをあげ、その基盤として、「人間性、基本的な生活習慣」を置いている。その関係を下記にまとめた。



義務教育段階では「基礎学力」が重視され、高等教育段階では「専門知識」が重視されており、一般的な「学力」と「社会人基礎力」は一致なくなっていると指摘している。

## 2. 社会人基礎力の内容

### ① 前に踏み出す力（アクション）

……「主体性、働きかける力、実行力」

実社会の仕事において、答えは1つに決まっておらず、試行錯誤しながら、失敗を恐れず、自ら、一歩前に踏み出す行動が求められる。失敗しても、他者と協力しながら、粘り強く取り組むことが求められる。

### ② 考え抜く力（シンキング）

……「課題発見力、計画力、創造力」

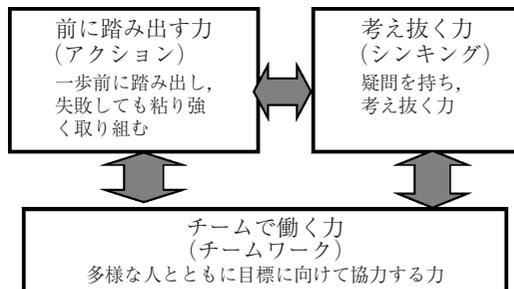
物事を改善していくためには、常に問題意識を持ち課題を発見することが求められる。その上で、その課題を解決するための方法やプロセスについて十分に納得いくまで考え抜くことが必要である。

### ③ 「チームで働く力」（チームワーク）

……「発信力、傾聴力、柔軟性、状況把握力、規律性、ストレスコントロール力」

多様な人々とともに目標に向けて協力する力であり、職場や地域社会等では、仕事の専門化や細分化が進展しており、個人として、また組織としての付加価値を創り出すためには、多様な人との協働が求められる。

自分の意見を的確に伝え、意見や立場の異なるメンバーも尊重した上で、目標に向けともに協力することが必要である。



## 3. 取り組むべき課題

### ① 社会人基礎力の共通理解の推進

「職場等で求められる能力」の具体的内容を分かりやすく示し、企業・若者・学校等を結ぶ「共通言語」をつくる必要がある。

② 社会人基礎力を土台とした企業・若者・学校等のつながりの強化を図る必要がある。